



## 平成29年3月期 第1四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

平成28年8月10日

上場会社名 そーせいグループ株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4565 URL <http://www.sosei.com/>  
 代表者 (役職名) 代表執行役社長 (兼取締役) CEO (氏名) ピーター・ベインズ  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役副社長CFO (氏名) 虎見 英俊 TEL 03-5210-3290  
 四半期報告書提出予定日 平成28年8月10日 配当支払開始予定日－  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成29年3月期第1四半期の連結業績（平成28年4月1日～平成28年6月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		四半期利益		親会社の所有者に帰属する四半期利益		四半期包括利益合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第1四半期	15,082	—	12,955	—	13,515	—	11,097	—	11,150	—	5,912	331.0
28年3月期第1四半期	575	143.8	△1,054	—	△1,266	—	△976	—	△955	—	1,371	—

	基本的1株当たり 四半期利益	希薄化後1株当たり 四半期利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第1四半期	661.09	657.72
28年3月期第1四半期	△69.34	△69.34

(注) 平成27年2月において行った企業結合に係る暫定的な会計処理の確定に伴い、平成28年3月期第1四半期の要約四半期連結財務諸表を遡及修正しています。

#### (2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に帰属する持分	親会社所有者帰属持分比率
	百万円	百万円	百万円	%
29年3月期第1四半期	54,923	29,320	29,246	53.2
28年3月期	47,354	23,269	23,142	48.9

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
29年3月期	—	—	—	—	—
29年3月期（予想）	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 平成29年3月期の連結業績予想（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

(%表示は、通期は対前期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		親会社の所有者に帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	27,925	242.6	17,096	—	14,901	—	13,064	—	775.07

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年3月期1Q	16,892,984株	28年3月期	16,855,284株
② 期末自己株式数	29年3月期1Q	一株	28年3月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年3月期1Q	16,866,325株	28年3月期1Q	13,778,759株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続きは終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	5
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	6
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	6
3. 要約四半期連結財務諸表 .....	7
(1) 要約四半期連結財政状態計算書 .....	7
(2) 要約四半期連結包括利益計算書 .....	8
(3) 要約四半期連結持分変動計算書 .....	9
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	10
(5) 継続企業の前提に関する注記 .....	11
(6) セグメント情報等 .....	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(当期の経営成績)

① 業績の状況

当社グループは、日本に軸足を置いた国際的なバイオ企業を目指し、グローバルな研究開発活動やライセンス活動などの事業展開を推進しております。

当期においては、子会社であるHeptares Therapeutics Ltd. (以下「Heptares社」)が保有するパイプライン(開発品群)に関して、世界大手製薬会社Allergan plc の完全子会社であるAllergan Pharmaceuticals International Ltd. (以下「Allergan社」と)の提携契約等、大きな成果を得ることができました。

当第1四半期連結累計期間の経営成績及び分析は以下のとおりです。

連結経営成績

(単位：百万円)

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	前年同期比
売上収益	575	15,082	14,506
売上総利益	575	15,082	14,506
営業利益(△損失)	△1,054	12,955	14,009
四半期利益(△損失)	△976	11,097	12,073

(注)平成27年2月において行った企業結合に係る暫定的な会計処理の確定に伴い、平成28年3月期第1四半期の要約四半期連結財務諸表を遡及修正しております。

(売上収益、売上総利益)

当第1四半期連結累計期間の売上収益は、前第1四半期連結累計期間に比べ14,506百万円増加し、15,082百万円となりました。これは主にHeptares社のパイプラインを導出したことに伴う一時金を受領したことによるものです。

(営業損益)

当第1四半期連結累計期間の営業損益は、前第1四半期連結累計期間に比べ14,009百万円増加し、12,955百万円の利益となりました。これは主に上記の売上収益、売上総利益の増加によるものです。

(四半期損益)

当第1四半期連結累計期間の四半期損益は、前第1四半期連結累計期間に比べ12,073百万円増加し、11,097百万円の利益となりました。これは主に営業損益及び金融収益が増加したことと、法人所得税費用が発生したことによるものです。

研究開発費、販売費及び一般管理費の内訳

(単位：百万円)

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	前年同期比
研究開発費	875	930	54
販売費及び一般管理費	748	1,252	503
(内訳) 人件費	275	490	214
委託費	132	383	250
その他	339	378	38

(注)平成27年2月において行った企業結合に係る暫定的な会計処理の確定に伴い、平成28年3月期第1四半期の要約四半期連結財務諸表を遡及修正しております。

(研究開発費、販売費及び一般管理費)

当第1四半期連結累計期間の研究開発費は、前第1四半期連結累計期間に比べ54百万円増加し、930百万円となりました。また販売費及び一般管理費は、前第1四半期連結累計期間に比べ503百万円増加し、1,252百万円となりま

した。これは主に当第1四半期連結累計期間においては、Heptares社のパイプライン拡充のための費用が多く発生したことによるものです。

(金融収益)

当第1四半期連結累計期間において、761百万円の金融収益を計上しました。これは主に英国の連結子会社における外貨建資産を英ポンドへ評価替した際に、英ポンド安の影響を受け、為替差益761百万円が発生したことによるものです。

(法人所得税費用)

当第1四半期連結累計期間において、2,417百万円の法人所得税費用を計上しました。これは主にHeptares社及びSosei R&D Ltd.の税引前利益に対するものです。

セグメント別の状況は以下のとおりです。

(国内医薬事業)

当第1四半期連結累計期間における国内医薬事業の売上収益は、前第1四半期連結累計期間に比べ5百万円減少し、35百万円となりました。これは前第1四半期連結累計期間に比べてノルレボ錠に関するロイヤリティが減少したことによるものです。また営業損益は前第1四半期連結累計期間に比べ71百万円減少し、173百万円の営業損失となりました。

(海外医薬事業)

当第1四半期連結累計期間における海外医薬事業の売上収益は、前第1四半期連結累計期間に比べ14,512百万円増加し、15,046百万円となりました。これは主にHeptares社のパイプラインを導出したことに伴う一時金を受領したことによるものです。また営業損益は前第1四半期連結累計期間に比べ14,224百万円増加し、13,330百万円の営業利益となりました。

② キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	前年同期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,158	13,751	12,593
投資活動によるキャッシュ・フロー	△78	△128	△50
財務活動によるキャッシュ・フロー	△36	△542	△506

(注)平成27年2月において行った企業結合に係る暫定的な会計処理の確定に伴い、平成28年3月期第1四半期の要約四半期連結財務諸表を遡及修正しております。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、Heptares社のパイプラインを導出したこと等により、13,751百万円の収入となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出が56百万円、資産計上された開発費に関連する支出が65百万円あったこと等により、128百万円の支出となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、短期有利子負債の返済による支出500百万円があったこと等により542百万円の支出となりました。

③ 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間においては、主にStaR<sup>®</sup>技術を有するHeptares社のパイプラインの研究開発を行いました。その結果、研究開発費は930百万円（前年同四半期比54百万円増加）となりました。なお国内医薬事業及び海外医薬事業に係わる研究開発費はそれぞれ、127百万円及び802百万円になります。また資産計上の要件を満たす一部の開発費用については、無形資産に計上しております。

各開発品等の進捗に関するセグメント別の詳細は以下のとおりです。

(国内医薬事業)

《インライセンス》

国内医薬品事業に係る製品及び主要開発品の主な進捗は、S0-1105(適応：口腔咽頭カンジダ症)の有効性及び安全性を検証する第Ⅲ相臨床試験を実施しています。販売については既に富士フィルムファーマ株式会社と独占販売契約を締結しています。

《基盤技術による研究開発》

子会社である株式会社アクティブスファーマは、不純物の混入を最小限に防ぎつつ、難溶性の医薬品原料を50-200nm(ナノメートル)レベルの結晶粒子径に粉碎することが可能であるナノ粉碎化技術(APNT: Activus Pure Nanoparticle Technology)を活用し、これまで開発が困難、不可能であった難溶性薬物の注射、点眼、吸入製剤等への応用に取り組んでいます。APNTを用いた開発品は、APP13002(適応：感染性眼疾患)、APP13007(適応：炎症性眼疾患)があり、現在、前臨床試験を実施しています。

子会社であるJITSUBO株式会社は、ペプチド合成を高効率かつ低コストで実現可能とする革新的な液相合成法技術であるMolecular Hiving™、ペプチドの立体構造を改変することにより有効性及び安全性の向上、更に薬剤の安定性の改善にも役立つとされるペプチド修飾の新たな要素技術であるPeptide™を有しています。新規ペプチド液相合成法を用いた開発品は、後発品であるJIT-2001(適応：循環器系疾患)及びJIT-1007(適応：希少性疾患)の前臨床試験を実施しています。

(海外医薬事業)

《主要製品》

■QVA149 (適応：慢性閉塞性肺疾患(COPD)) ノバルティス社により上市済み (欧州・日本)

QVA149(一般名：グリコピロニウム臭化物/インダカテロールマレイン酸塩、製品名：Ultibro® Breezhaler®(欧州)、ウルティプロ®吸入用カプセル(日本))は、1日1回吸入のLAMA(グリコピロニウム臭化物)とLABA(インダカテロールマレイン酸塩)の固定用量の配合剤であり、慢性閉塞性肺疾患(以下「COPD」)の諸症状を緩和するための気管支拡張剤です。ウルティプロは、欧州、日本、カナダ、メキシコ、オーストラリア等を含む90ヵ国以上において1日1回吸入のLAMA/LABA配合剤として初めて承認され、現在は、日本、ドイツ、カナダを含む40ヵ国以上において販売されております。

また、米国においては、QVA149(グリコピロニウム15.6µg/インダカテロール27.5µg)は2015年10月に慢性気管支炎や肺気腫を含むCOPDに基づく気道閉塞性障害の新規1日2回吸入の長期維持療法として、Utibron™ Neohaler®の製品名で承認されました。

■NVA237 (適応：慢性閉塞性肺疾患(COPD)) ノバルティス社により上市済み (欧州・日本)

NVA237(一般名：グリコピロニウム臭化物、製品名：Seebri®(Breezhaler®欧州)、シーブリー®吸入用カプセル50µg(日本))は、1日1回吸入の長時間作用性抗コリン薬(以下「LAMA」)であり、COPDの諸症状を緩和するための気管支拡張剤です。当社とバクチュラ・グループは2005年4月にノバルティス社に全世界の独占的開発・販売権を導出してしております。現在は、欧州、日本、カナダ、南米、アジア、オーストラリア、中東を含む90ヵ国以上において承認されております。

また、米国におけるNVA237(グリコピロニウム15.6µg)は、2015年10月に慢性気管支炎や肺気腫を含むCOPDに基づく気道閉塞性障害の新規1日2回吸入の長期維持療法として、Seebri™ Neohaler®の製品名で承認されました。

当社はノバルティス社との契約に基づき、両剤の全世界の売上に対する一定率のロイヤリティを受領できることになっております。

※「ウルティプロ®」、「シーブリー®」、「ブリーズヘラー®」及び「Neohaler®」はノバルティス社の登録商標です。「Utibron™」及び「Seebri™」はノバルティス社の商標です。

《基盤技術による研究開発》

■StaR®技術を活用したGPCR構造ベース創薬

子会社であるHeptares Therapeutics Ltd.(以下「Heptares社」)は、熱力学的に安定化したGPCRを作成させることができる世界初となるStaR®技術を活用したGPCR構造ベース創薬技術を有しています。GPCRは、細胞膜に埋まっているタンパク質であり、細胞外から細胞内へ生化学的情報伝達の役割を担い、味覚、視覚、嗅覚、行動、自律神経系機能、免疫機能等、様々な生理学的及び生物学的反応に関与しているため、GPCRは、薬物治療上、最も重要な標的分子であるとされています。しかし、細胞膜から抽出されると分子構造が不安定となるためその構造が明らかとなっていないものが多く、立体構造に基づく創薬研究は難しいとされてきました。StaR®技術の応用によりGPCR

の構造解析が進み、これまで難しいとされてきた分子構造設計に基づいた強力かつ選択性の高い候補物質の創製が可能となります。Heptares社は神経疾患領域、がん免疫から代謝疾患、希少疾患領域まで充実したパイプラインを有しており、研究開発において複数のパイプラインの開発を着実に推進しています。同時に、基盤技術を用いた提携、自社パイプラインの導出に積極的に取り組んでいます。

当連結会計年度の主な進捗は、次のとおりです。

・ Allergan社とのアルツハイマー病等の中枢神経系疾患に対する新規治療薬の開発・販売提携

Heptares社は、Allergan社と、2016年4月7日に、アルツハイマー病等の神経系疾患を適応とする新規ムスカリン受容体サブタイプ選択的作動薬化合物群の開発・販売に係る提携契約を締結しました。本提携により、125百万米ドルの契約一時金を受領、さらに最初の3つの化合物の開発の進捗や上市に応じて最大約665百万米ドルの開発マイルストーン収入、販売目標の達成に応じて最大約2,500百万米ドルの販売マイルストーン収入を受領することが可能になります。また、Heptares社はすべての化合物について、売上高に応じた最大二桁の段階的ロイヤリティ収入を受領できることとなります。Allergan社は複数の候補薬の開発を進めることを目的とした両社協同の開発プログラムにおいて、第II相臨床試験まで50百万米ドルの研究開発支援金を提供します。また、Allergan社は化合物群の後期第II相臨床試験開始とそれに続く製品の製造販売の責任を持つこととなります。

・ AstraZeneca社との複数のがん種を標的とするがん免疫療法開発における新薬候補の第I相臨床試験開始

Heptares社は、2015年8月にAstraZeneca社（英国）とがん免疫療法開発に関する提携契約を締結いたしました。AstraZeneca社はがん免疫療法の低分子化合物であるアデノシンA<sub>2A</sub>受容体拮抗薬HTL1071及びその他のアデノシンA<sub>2A</sub>受容体阻害剤の独占の開発、製造販売権を取得し、複数のがん種を標的とした既存開発ポートフォリオのがん免疫療法の併用を含む、HTL1071及びその他の化合物の研究開発を実施しています。Heptares社は早期達成が見込まれる前臨床研究結果及び臨床試験開始に応じて相当額のマイルストーンを受領いたします。このたび、がん免疫療法の候補薬であるHTL1071（AZD4635）が、第I相臨床試験において最初の被験者に投与されたことを契機に、Heptares社は提携先であるAstraZeneca社より10百万米ドルを受領いたしました。

今後さらに、予め定められた開発及び販売の目標の達成に応じて、総額500百万米ドルを超える開発及び販売マイルストーンや、販売高に応じた最大二桁比率の段階的ロイヤリティを受領することが可能となっています。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ7,569百万円増加し、54,923百万円となりました。

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ10,580百万円増加し、20,649百万円となりました。なお流動資産の総資産に占める比率は41.0%、現金及び現金同等物の流動資産に占める比率は91.7%となりました。

当第1四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ1,518百万円増加し、25,603百万円となりました。主な増加要因は、未払法人所得税が2,124百万円増加したことです。一方で、減少要因として有利子負債500百万円の返済が生じております。

当第1四半期連結会計期間末における資本は、前連結会計年度末に比べ6,050百万円増加し、29,320百万円となりました。主な増加要因は、当四半期利益の増加に伴い利益剰余金が増加したことによるものです。また、親会社所有者帰属持分比率は前連結会計年度末に比べ4.3ポイント増加し、53.2%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2016年5月13日の「平成28年3月期 決算短信〔IFRS〕（連結）」で公表した予想から変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

当社グループの要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は前年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一です。

なお、当第1四半期の法人所得税費用は、見積年次実効税率を基に算定しております。



3. 要約四半期連結財務諸表

(1) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間 (2016年6月30日)	前連結会計年度 (2016年3月31日)
資産		
非流動資産		
有形固定資産	281	270
のれん	14,020	15,426
無形資産	16,625	19,313
繰延税金資産	1,418	1,658
その他の非流動資産	51	49
非流動資産合計	32,397	36,718
流動資産		
営業債権及びその他の債権	1,242	97
その他の流動資産	634	469
現金及び現金同等物	20,649	10,068
流動資産合計	22,526	10,635
資産合計	54,923	47,354
負債及び資本		
負債		
非流動負債		
繰延収益	—	21
繰延税金負債	3,240	3,688
企業結合による条件付対価	5,444	9,994
有利子負債	6,364	6,847
その他の非流動負債	182	74
非流動負債合計	15,232	20,626
流動負債		
営業債務及びその他の債務	5,970	1,335
繰延収益	34	20
未払法人所得税	2,194	70
有利子負債	1,990	1,990
その他の流動負債	181	42
流動負債合計	10,370	3,458
負債合計	25,603	24,084
資本		
資本金	25,986	25,955
資本剰余金	14,371	14,263
利益剰余金	△3,034	△14,184
その他の資本の構成要素	△8,076	△2,891
親会社の所有者に帰属する持分	29,246	23,142
非支配持分	73	126
資本合計	29,320	23,269
負債及び資本合計	54,923	47,354

(2) 要約四半期連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 2016年4月 1日 至 2016年6月30日)	前第1四半期連結累計期間 (自 2015年4月 1日 至 2015年6月30日) (修正再表示)
売上収益	15,082	575
売上原価	—	—
売上総利益又は損失(△)	15,082	575
研究開発費	930	875
販売費及び一般管理費	1,252	748
その他の収益	55	2
その他の費用	0	8
営業利益又は損失(△)	12,955	△1,054
金融収益	761	61
金融費用	202	273
税引前四半期利益又は損失(△)	13,515	△1,266
法人所得税費用	2,417	△289
四半期利益又は損失(△)	11,097	△976
その他の包括利益		
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の為替換算差額	△5,185	2,348
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
合計	△5,185	2,348
その他の包括利益合計	△5,185	2,348
四半期包括利益合計	5,912	1,371
四半期利益又は損失(△)の帰属：		
親会社の所有者	11,150	△955
非支配持分	△52	△21
四半期利益又は損失(△)	11,097	△976
四半期包括利益の帰属：		
親会社の所有者	5,965	1,393
非支配持分	△52	△21
四半期包括利益	5,912	1,371
1株当たり四半期利益(円)		
基本的1株当たり四半期利益又は損失(△)	661.09	△69.34
希薄化後1株当たり四半期利益又は損失(△)	657.72	△69.34

(3) 要約四半期連結持分変動計算書

当第1四半期連結累計期間 (自2016年4月1日 至2016年6月30日)

(単位: 百万円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	その他の	親会社の所有者に
				資本の構成要素 在外営業活動体の 為替換算差額	
2016年4月1日時点の残高	25,955	14,263	△14,184	△2,891	23,142
四半期利益又は損失(△)	—	—	11,150	—	11,150
為替換算差額	—	—	—	△5,185	△5,185
四半期包括利益合計	—	—	11,150	△5,185	5,965
新株の発行	30	4	—	—	34
株式報酬費用	—	103	—	—	103
所有者との取引額合計	30	108	—	—	138
2016年6月30日時点の残高	25,986	14,371	△3,034	△8,076	29,246
	非支配持分	資本合計			
2016年4月1日時点の残高	126	23,269			
四半期利益又は損失(△)	△52	11,097			
為替換算差額	—	△5,185			
四半期包括利益合計	△52	5,912			
新株の発行	—	34			
株式報酬費用	—	103			
所有者との取引額合計	—	138			
2016年6月30日時点の残高	73	29,320			

前第1四半期連結累計期間 (自2015年4月1日 至2015年6月30日)

(単位: 百万円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金 (修正再表示)	その他の	親会社の所有者に
				資本の構成要素 在外営業活動体の 為替換算差額 (修正再表示)	
2015年4月1日時点の残高	19,478	7,774	△12,614	△38	14,600
四半期利益又は損失(△)	—	—	△955	—	△955
為替換算差額	—	—	—	2,348	2,348
四半期包括利益合計	—	—	△955	2,348	1,393
新株の発行	36	24	—	—	61
配当	—	—	△137	—	△137
所有者との取引額合計	36	24	△137	—	△76
2015年6月30日時点の残高	19,514	7,799	△13,707	2,310	15,917
	非支配持分	資本合計 (修正再表示)			
2015年4月1日時点の残高	241	14,842			
四半期利益又は損失(△)	△21	△976			
為替換算差額	—	2,348			
四半期包括利益合計	△21	1,371			
新株の発行	—	61			
配当	—	△137			
所有者との取引額合計	—	△76			
2015年6月30日時点の残高	220	16,137			

(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 2016年4月 1日 至 2016年6月30日)	前第1四半期連結累計期間 (自 2015年4月 1日 至 2015年6月30日) (修正再表示)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益又は損失(△)	13,515	△1,266
減価償却費及び償却費	234	234
株式報酬費用	94	—
補助金収入	△55	△2
為替差損益	557	△294
支払利息	35	134
条件付対価に係る公正価値変動額	149	138
未収入金の増減額(△は増加)	△363	—
営業債権の増減額(△は増加)	△1,299	2,581
営業債務の増減額(△は減少)	443	△286
その他	404	11
小計	13,716	1,250
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△18	△73
補助金の受取額	55	—
法人所得税の還付額	—	2
法人所得税の支払額	△2	△21
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,751	1,158
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△56	△28
資産計上された開発費に関連する支出	△65	△49
その他	△6	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△128	△78
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期有利子負債の純増減額(△は減少)	△500	—
条件付対価の決済による支出	△77	—
株式の発行による収入	34	61
配当金の支払による支出	—	△97
財務活動によるキャッシュ・フロー	△542	△36
現金及び現金同等物の為替変動による影響	△2,499	258
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	10,580	1,302
現金及び現金同等物の期首残高	10,068	5,573
現金及び現金同等物の四半期末残高	20,649	6,875

(5) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

① 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち、分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものです。当社グループは持株会社体制をとっており、持株会社がグループ全体の経営管理機能を担っております。当社グループは、現在の利益管理単位である会社の所在地を基準にして、国内医薬事業と海外医薬事業の2つを報告セグメントとしております。両セグメントともに医薬品を開発し、ライセンスアウトすることを主たる事業としております。

上記のように決定された報告セグメントにおける主要セグメントの主たるパイプラインは以下のとおりです。

報告セグメント	会社名	主たるパイプライン
国内医薬事業	・株式会社そーせい ・株式会社アクティブスファーマ ・JITSUBO株式会社	・S0-1105 ・APP13002 ・APP13007 ・JIT-2001 ・JIT-1007
海外医薬事業	・Sosei R&D Ltd. ・Heptares Therapeutics Ltd.	・シーブリ® ・ウルティプロ® ・ムスカリンM <sub>1</sub> ・M <sub>4</sub> ・M <sub>1</sub> /M <sub>4</sub> デュアル受容体作動薬 ・CGRP受容体拮抗薬 ・アデノシンA <sub>2A</sub> 受容体拮抗薬

② 報告セグメントの収益、損益

当社グループの報告セグメント情報は以下のとおりです。各報告セグメントの会計方針は、前連結会計年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一です。

当第1四半期連結累計期間（自 2016年4月1日 至 2016年6月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額	連結
	国内医薬	海外医薬	計		
外部顧客からの売上収益	35	15,046	15,082	—	15,082
セグメント間の売上収益	—	—	—	—	—
計	35	15,046	15,082	—	15,082
営業利益（又は損失（△））	△173	13,330	13,156	△201	12,955
金融収益・費用（純額）					559
税引前四半期利益（又は損失（△））					13,515

調整額は報告セグメントに帰属しない親会社（持株会社）に係るものです。

前第1四半期連結累計期間（自 2015年4月1日 至 2015年6月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額	連結
	国内医薬	海外医薬	計		
外部顧客からの売上収益	41	534	575	—	575
セグメント間の売上収益	—	—	—	—	—
計	41	534	575	—	575
営業利益（又は損失（△））	△102	△894	△996	△57	△1,054
金融収益・費用（純額）					△212
税引前四半期利益（又は損失（△））					△1,266

調整額は報告セグメントに帰属しない親会社（持株会社）に係るものです。

2015年2月において行った企業結合に係る暫定的な会計処理の確定に伴い、2016年3月期第1四半期の要約四半期連結財務諸表を遡及修正しております。